

# 地震・津波対策特別委員会会議録

[平成25年 1月28日開催]

南あわじ市議会

# 地震・津波対策特別委員会会議録

日 時 平成25年 1月28日  
午前10時00分 開会  
午前10時40分 閉会  
場 所 南あわじ市議会委員会室

## I. 出席委員、欠席委員、事務局出席職員及び説明のために出席した者の職氏名

### 出席委員（8名）

委 員 長	谷 口 博 文
副 委 員 長	長 船 吉 博
委 員	廣 内 孝 次
委 員	出 田 裕 重
委 員	阿 部 計 一
委 員	印 部 久 信
委 員	中 村 三 千 雄
委 員	北 村 利 夫
議 長	森 上 祐 治

### 欠席委員（1名）

委 員	蛭 子 智 彦
-----	---------

### 事務局出席職員職氏名

事 務 局 長	高 川 欣 士
次 長	阿 閉 裕 美
課 長	垣 光 弘
書 記	川 添 卓 也

### 説明のために出席した者の職氏名

副 市 長	川 野 四 朗
総 務 部 長	瀨 本 幸 男
防 災 課 長	松 下 良 卓

## II. 会議に付した事件

1. 東海・東南海・南海地震対策及び津波対策に関する調査研究…………… 3
  - ① 今後の委員会の進め方について
  - ② 福良湾口防波堤について
  - ③ その他
    - ・管外調査について

## III. 会議録

# 地震・津波対策特別委員会 平成25年 1月28日(月)

(開会 午前10時00分)

(閉会 午前10時40分)

○谷口博文委員長 おはようございます。

きょうはちょっと蛭子委員のほうは体調不良ということで欠席のことを聞いております。

本日は、昨今危機管理についてちょっと考えさせられるような事案が。アルジェリアのテロ、日本の企業が進出しているような状況にあって危機管理等々、また一昨年3.11、東北での大規模地震、また津波等において2万人弱のそういうような方々が犠牲になられたような事案、また東電の原発事故等々、危機管理について我々も十分に考えさせられるような事案が多々発生しておられる中で、要は市内において南海地震等々、いろんなさまざまな危機管理を十分にこの委員会を通じて慎重審議していただいた上で、執行部、行政のほうに我々の意見を提言というか、意見書等でやっていきたいと思っております。

それでは早速、地震・津波対策委員会を開催させていただきわけですが、執行部のほう、何か意見ありますか。報告なり、何なり、ありますか。ありませんか。

なければこの次第で、今後の委員会の進め方ということで、ちょっと皆さん方に協議していただきたいんですが、お手元の計画案ということでちょっと進めさせていただきたいんですが、要は本日は福良湾口の防潮堤についてのちょっと説明を受けた上で、2月ごろにまた県のほうも詳細なことができてくると思いますんで、4月にそういうふうな県のシミュレーション結果についてのさまざまなことで協議をし、また海南市のほうで福良湾口に建設されるような、そういうようなやつがございますので、その辺の視察なり、いろんなことをしていきたいというような、これはあくまでも案でございますが、これに対して何かそれぞれ委員の方の意見、ございましたら。

何か意見ございませんか。

阿部委員。

○阿部計一委員 意見というより、これは新聞では福良湾口の可動式と固定式、しまいのほうですけども阿万海岸の堤防の1メートルのかさ上げということも新聞紙上に載っていたということで、これもここでは言いませんが、そういうことが進んでいきよるということは確かなんで、やはりそれも一つの課題にして執行部も。執行部が知っておるか、知っとらんのかわからんけども。ただ、福良湾だけでなしに、阿万海岸の防波堤の1メートルのかさ上げということは県の構想に入っておるのやから、やっぱりその中に入れてほしいなど。

○谷口博文委員長 これは当然、きょうは福良湾口、こういう新聞紙上に出ておったよ

うな説明、また執行部のほうからそういうふうなことを聴取して、この委員会としてもいろんなさまざまな提言をしていきたいなというような考えがございますので、その辺は当然この4月の委員会においてその辺の審議もまた進めてまいりたいと、そのような思いがございます。

○阿部計一委員 委員長、ですからこの福良湾の、これはこれで結構です。その中で、やはり阿万の海岸のそういう1メートルのかさ上げと、これはもう県の構想で、県の知事もおっしゃっておることで。2年前から、23年度からそういうことをおっしゃっておるんやから、新聞にも載っておるんやから、一緒にそういうことを検討してほしいと、そういう要望なんです。執行部、そんな話は全然聞いてませんか。

○谷口博文委員長 副市長。

○副市長（川野四朗） 我々聞いております。それでこういう新聞に書いてあるようなことは、12月に県のほうからも連絡がございまして、今後どのように進めていくかという話は聞いております。県のほうでは、津波防災対策5カ年計画、これを2月ぐらいに発表するというを言っておられますので、その5カ年計画の中にこういうものが織り込まれてくるということでございます。その5カ年計画に基づいて、今後実際に建設するための委員会等を開いて、個々の計画を進めていくという話は聞いておりますので、阿万海岸の防潮堤のかさ上げ、それから川尻の浮上式を要望しておるわけなんです、そこへの対応という話も聞いておりますので、それとあわせてやっていきたいと思っております。

○谷口博文委員長 阿部委員。

○阿部計一委員 そんなの言うても、福良湾口もやけど、そういうこともこの中にやっぱり入れてほしいなど。

○谷口博文委員長 わかりました。

ほかにございませんか。

長船副委員長。

○長船吉博副委員長 今後の委員会の進め方。今、課長、南あわじ市に自主防災組織、たくさんできておるけども、実質ほんまに充実した自主防災組織であるのか。きょう、あす、そういう地震、津波、また災害等においてその組織が充実した活動ができるのかどうかというのは非常に僕ら、不安なんよ。だからそこら、課長はどういうふうに取り扱

ておるのか、まずそれから聞かせてもらいたい。

○谷口博文委員長 防災課長。

○防災課長（松下良卓） 今も長船委員が申されますように、自主防災組織はかなり結成して市の補助金をいただいて活動もしているというような部分が大半なんですけども、実際、そういう沿岸部の自主防災の組織の方がどれだけ活動をしているかというようなことにつきましても、防災課のほうとしても全て網羅しておるわけではございません。それで、福良地区、また阿万地区で、特に阿万地区では今、福祉課と共同で災害時要援護者の実質、その地域でどういう方が自力で避難できないかというのをリストアップして、そういうような地域でお互いに共同で、共助で助け合おうとする個別の避難支援の計画というのも今、南あわじ市内4カ所の旧町ごとなんですけどもモデル地区をこしらえて説明会にも行ったりして、少しずつそういう意識は十分高まってきていると思うんですけども、個々の部分につきましてもなかなか把握はできていない部分も実際はございます。以上です。

○谷口博文委員長 長船副委員長。

○長船吉博副委員長 3.11からこの防災意識というのは極度に上がったと思う。そうやけども、実質、前々から言いよるねんけども、その防災に対して自主防災組織のリーダーを誰がするんや、自治会長がするんか、そこらのもう少し中へ突っ込んだ防災士育成と早くから僕ら言いよるねんけども、それも進んでもない。市が補助してやっても何人、今までそれを使ってやっておるか。ごくしれとるよの。二、三十人おるのけ。そこら、まずどうですか。

○谷口博文委員長 防災課長。

○防災課長（松下良卓） 今、南あわじ市内では防災士が18名、それは一般の方が18名いらっしゃいます。職員は8名います。以上です。

○谷口博文委員長 長船副委員長。

○長船吉博副委員長 それで自主防災組織が何ぼあるのよ。200何ぼあるのか。

○谷口博文委員長 防災課長。

○防災課長（松下良卓） 自主防災組織は187組織で今、活動していただいております。

○谷口博文委員長 長船副委員長。

○長船吉博副委員長 それでこれだけの、いわば一つのリーダーというか専門的知識を持った方がこれだけしかいないと。これでほんまに充実した自主防災組織ができるのかどうかというのは非常に委員長、不安なんよの。ここで協議するのも一つの目的としては、委員会としてはいいと思うんやけども、各地区のその自主防災組織の方なり、こっちから出向いてもよし、逆に向こうからこっちに来てもらって、いろんな協議をして。また全額防災士とるのにうちからどないぞ人を出すよって、市でやってくれへんかとかいうようなこともひよっとしたら出てくるかもわからんし。いや、もっとうこう、設備がちょっと足らんとか、たくさんあると思うんよの。そこらもひとつ、この1年、一つの目的としてそういうことも視野において委員会としてやっていったらどうかと思うんですけども、一応、皆に諮って協議していただけますか。

○谷口博文委員長 自主防災組織等々との意見交換会を持ってそういうふうなさまざまな地区の意見、また自主防災組織としての機能強化的な防災士の育成に取り組むべきだというような長船委員の意見なんですが、各委員、長船委員の意見に対しまして、何か御意見ございますか。

ございませんか。

そしたら自主防災組織等々との長船委員の意見交換等の、そういうふうな場をこの委員会において設置というか、この行事予定の中に組むべきだという意見で、その辺でそういうふうなことで自主防災組織の意見を吸い上げるという意味合いにおいて、そういうような機会を持つべきだという意見に対して、賛同していただけますか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○谷口博文委員長 よろしいですか。

そしたらこの事業計画案の中にそういうふうなことで今年度、またつけ加えてやらせていただくということによろしいですね。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○谷口博文委員長           ほかに御意見ございますか。

          ございませんか。

          そしたら次の福良湾口なり、阿万海岸のことについての今のわかっておる、県のほうも当然検討中であると思うんですが、その辺、わかっておる範囲で執行部のほう、説明していただけますか。

          防災課長。

○防災課長（松下良卓）       1月1日に神戸新聞に掲載されました記事の内容について若干私どもが知り得ている情報を報告をさせていただきます。

          まず、この福良湾の湾のところに防潮堤なり防波堤というのを建設をしたらいというような動きがありましたのは、平成18年2月ぐらいだったと思うんですけども、河田先生が福良湾の津波対策検討委員会というような会が、四、五回されて、その中でこういう湾口防波堤なりを建設すれば被害は少しでも少なくなるだろうというような提言がされました。それに基づいて兵庫県では当初、津波防災ステーションが建設されましたときに、20年から30年ぐらいの長期の構想として、福良の湾口について防波堤を建設するような調査研究というようなことが福良の津波防災ステーションの福良湾の図面の中に入っていました。市としてもそういう提言がありましたものですから、国なり県なりに福良湾の津波被害を軽減できるハードな事業の要望をずっとしておりました。

          そういう中で県のほうもそういうふう理解をしていただいて、福良の湾の中に、湾に防潮堤を建設するための調査を行うというような記事でございます。その調査につきましては、春夏秋冬の福良湾の海流の潮流調査をまず行うと。その潮流調査をしながら、国に向けてそういうハード事業の要望をしていく。国から予算がおりればすぐ対応できるような形のために潮流調査を行う。ただし、その潮流調査を行うためには地元の、特に漁業組合さんとかの関係者の方にもこれから説明をしていかなければならない。また、福良地区の自治会等にも説明をしていかなければならないということで、今現在まだ地元のほうには入ってはおりません、と思います。ただ、個々に漁業組合さんのほうには洲本土木のほうからはこういう潮流調査をする計画がございますというようなことは伝えてあるそうです。

          ただ、この潮流調査につきまして、いざどういうハードをするかというような中で、固定式の通常の防波堤にするか、また、今和歌山県の海南市で建設中の直立浮上式にするのかというのは、今後その直立浮上式も踏まえた中の潮流調査をするということで、その計画が平成25年から29年にかけての兵庫県の、先ほど副市長が申されました津波対策のインフラ5カ年計画に組み込まれるということでございます。

          この記事の最後のほうになるんですけども、阿万地区につきましても、海水浴場から

東側のほうの防波堤のかさ上げ、また、海水浴場から西側の一番端、河口部にありますところが防波堤があいてますので、そこら辺の陸閘の建設なり、また河口部の水門等の建設の調査研究も津波防災のインフラ5カ年計画に組み入れて、今後順次整備を進めていきたいというような計画の中に入れていくというような状況でございます。

私どもが今現在、県のほうから教えていただいているのは今報告させていただいたようなことなんですけれども。

以上です。

○谷口博文委員長           この説明について何か質疑ございますか。  
防災課長。

○防災課長（松下良卓）       済みません。それと、湾口の防波堤の、建設するに当たっての委員会の設置についても、新年度設置される予定でございます。  
以上です。

○谷口博文委員長           質疑ございませんか。  
暫時休憩します。

（休憩 午前10時20分）

（再開 午前10時23分）

○谷口博文委員長           再開します。  
総務部長。

○総務部長（淵本幸男）       この県が策定中の5カ年計画というのは、25年から29年の計画。特に地震津波、そういった部分のハード事業をどう取り組んでいくかということでございますので、25年4月からということになろうと思っておりますので、多分2月か3月中には発表されるのではないかと考えております。

○谷口博文委員長           何か、執行部の説明において質疑ございませんか。  
ございませんか。

そしたらちょっともう3番に行かせていただいてよろしいですか。

管外調査ということで、一応、当委員会において5月ぐらいに管外調査を実施する、これはあくまで案なんですけど、先ほど説明にもあったように海南市の浮上式のこの防潮堤と

いうやつの視察に行って、その辺との意見交換をやりたいというような思いがあるんですが、この管外調査について何か委員の方々の御意見ございますか。

印部委員。

○印部久信委員 委員長、行くのはいいんやけど、前行ったときは、ただ漠然と海岸線を我々が視察した程度でしたけれど。今度行く場合、この海南市の担当者と協議するようなことも考えてくれておるんですか。

○谷口博文委員長 これは防災課長、5月ごろにはもうある程度そういうふうな工事現場というか、その辺の視察はできるように私は聞いておるんだけど、その辺はどうなんですか。

総務部長。

○総務部長（渕本幸男） 新聞等を見た中での話になるかと思うんですけど、昨年10月から工事が着手したというようなことで、24年度中にその鋼管というか、30メートルほどある鋼管が3本、直径3メートルありますので約10メートル分だけ、鋼管の埋設なりが完了するというようなことのようにです。これはあくまでも先ほど課長も説明させていただいたように、ふだんは海底に沈んでますので、それを空気圧によって浮上するというようなことでございますので、そういった浮上する部分で海上へ約7.5メートルほど上がるということなんですけど、それが上がるような形で見れるのかどうかというのはちょっと確認はできてません。多分、240メートルですか、全長がある中で、10メートルできた、10メートルできた分で試験的に上がれるのかということは多分その段階でそういった試験もされるのだらうと思うので、実際にはそれを見れるのかなというように思うんですけど、そこら辺の確認はできておりません。

○谷口博文委員長 長船副委員長。

○長船吉博副委員長 委員長これ、見れる見れらんというのも何やけども、これインターネットで聞いとんだけども、和歌山市の総務部の危機管理課というのがあるんで、そこへ問い合わせしてくれというふうなことになっておるので、そこに問い合わせと大体説明してもらえるのか。業者も大林、それからアジア建設工業株式会社、三菱重工エンジニアリング、そこらが3社でやりよるのやから、そこらの業者もひよつとすると視察に行ったら説明してもらえるのか、図面で。要は問い合わせあって、そこへ問い合わせ、こっちの日にちも必要やけども、向こうがもしこの日って指定されたらもうしゃあないのであってやで、できるだけ向こうの意向に合わせて。こちらが教えてもらう、見せてもらうのやっ

て、向こうに合わせて、できたら防災課を窓口にして協議してもらってやったらどうですか。

○谷口博文委員長 管外調査ということで、海南省に視察へ行くというのは各委員、それで結構でしょうか。

それなら、後はその先ほど長船委員の言っておるような危機管理課のほうと調整した上でそういうふうな管外調査をやりたいと思います。

出田委員。

○出田裕重委員 ちょっと要らん提案なんですけど、大阪の高石市で今、防災タワーの研究を進めてる。行政と企業と一緒にあって、2月にもう完成するらしいんですけども、それは民間の企業なんです。もちろん高石市も関与しながらこれから進めていくということなので、もし日程と時間さえ合えば、通り道になると思うので。1時間程度寄るぐらいでも、もし空きがあれば。避難タワー。ちょっとまた情報提供しますけども。もし寄ってもいいのであれば。これ、委員の皆さんにも聞いていただいて。

○谷口博文委員長 ほかに何か御意見。

阿部委員。

○阿部計一委員 これはあくまでもそういう、先ほど長船委員が言われていたように、海南省の都合であちらが、例えば信号機でお世話になった前の賀集の原口土木部長、今も大林のほうへ行っているというようなことで、恐らくそういうふうなパイプを使えば。やっぱり前もそういう庁舎の中で説明を受けましたよ。ですから、直立式、さっき言いよつたように簡単に言うたら注射器みたいな浮上式の場合でやっていると。ですから原口さんにそういうアポイントをとって、委員長。そしたら大林との連携もとれますし。やはりそれがメインでいくということで、あちらに合わせてやると。海南省の全国市議会議長会でお会いしたときにはかなりもう具体的に行っていると。ぜひ見に行かせていただきたいというような話をしたんですけどね。かなりそれはほんまに、見えるような状況になっておるんじゃないかなと思うので。それで出田委員が言われていましたけども、そういう具体的に、本望はそこですけどもそういう時間的余裕があれば、そこへ行くということであって、あくまでもそれをメインというような形でやっていただきたいなと思います。

○谷口博文委員長 わかりました。

ちょっと、暫時休憩します。

(休憩 午前10時33分)

(再開 午前10時34分)

○谷口博文委員長 再開します。

それでは大体、視察研修、海南市とそれと出田委員から言うとした、高石市の避難タワー、時間があればそこへも寄って。避難タワー等々も見てはいかがという意見がございますので、この辺で進めさせてもらってよろしいですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○谷口博文委員長 よろしいですか。

そしたらそういうふうなことで進めさせていただきます。

本日、次回、先ほど言うとしたみたいに県のほうの5カ年計画が2月ごろに出てくるだろうということの想定のもと、その計画について4月ぐらいに日程調整させていただいて、その辺のことを十分審議して、5月には今言った、管外視察を海南市と、できれば時間があれば高石市のほう、それはもう相手方さんのあることなので、その辺の日程等はまだ十分協議させていただいた上でまたやらせていただければいいなど。

それと、長船委員が先ほど言うとしたように、自主防災組織との協議というか、その辺のこともまたこの日程につけ加えて、どこかで。当然自主防災組織も相手方さんのあることなのでその辺も。時間、例えば日中というのは自主防災のときにはちょっと厳しいことがあるので、夜間というか。時間のことはそれぞれ各委員、よろしいでしょうか。相手方さんの都合に合わせていただいてやらせていただくというようなことで協議を。その辺を1年かけてやから、これまでのどこかで日程調整できて、また自主防災組織のほうとの時間の協議の上でそういうふうなことで協議させてもらってよろしいでしょうか。土日でも構いませんか。

それはまた協議させていただくということで進めさせていただきます。

阿部委員。

○阿部計一委員 課長、この前も避難訓練、保育所と小学校の合同で阿万でやったと。

また育苗センターのほうへ避難訓練をしようとしたと。これはどこが正解なんですか。育苗センターに逃げるのか、あそこへ逃げるのか。これは現実的に考えたらあの保育所の小さい子供を抱えて、そんなものあんな育苗センターへ行けるはずがないことをやっておる。市としたら、どうしようとしよるねん。その辺を、今の状況やったら阿万小学校の3階なら3階といたら十分行けると思うんだけども。いまだにあっち行ったりこっち行ったり、

これはどういうことなの。

○谷口博文委員長 防災課長。

○防災課長（松下良卓） まず、より安全でより高いところへ逃げるというのがまず第一の条件であります。そういう施設管理者がいろいろ逃げるコースを考えていただいております。その施設の中での避難経路というか計画というのがあります。

今、阿部委員が申されますように、阿万の小学校、また保育所につきましては、その施設管理者の方々が今まで訓練をしております。より安全で早く避難ができる高いところというところが育苗センターであるということで、訓練をされておるといように思っております。

○谷口博文委員長 阿部委員。

○阿部計一委員 これは課長、ある程度行政が主導したらなんだから。現実考えたらあの小さい子供を抱えて、あの先生の人数で、育苗センター、どないして逃げるの。そんなもの誰が見たって。そんなこと、これはやっぱり小学校の3階なら3階に行くとか。現場見ましたか。私、この間見たけど、そんなのどないもでけへんですよ。それはもう小さい、ほんまにおんぶにだっこでもせなんなら行けんような子供もおるし、保育所の先生方も少ないし、やっぱりその辺はある程度行政が判断して、小学校なら小学校というようなことを主導すべきだと思います。今言われたように、福良地区でも地区の方にそういう逃げ場所については自発的にそういう考えて高いところに逃げてくださいということ言うてないでしょう、ある程度の行政主導を行いながらやっているんじゃないんですか。行政はやっぱりそれぐらいのことはある程度やるべきだと思うんですけども、その点どうですか。

○谷口博文委員長 防災課長。

○防災課長（松下良卓） 非常に難しい問題で、どれだけの大きい津波が来るか、それから言うのは難しいと思うんですけども、今、阿万地区にいたしましても、各自治会レベルでは、そこの自治会で協議された高いところに逃げていただくというのはほぼ、皆さん方わかっただいておるといように思うんです。あと、以前から阿部委員さんが特に保育所の園児の中でも小さい子供をどうするかというようなことがございます。教育委員会とかまた福祉のほうもいろいろとそういう問題があります。今、行政として小学校の3階に逃げろというのは津波注意報ぐらいであれば小学校の3階でもいいかと思うんですけども、津波警報という大きい津波の警報が出ましたら、やはり高い建物でありましたら

それ以上高いところに逃げれないというのがございます。そこら辺を踏まえて、特に福祉部局のほうと再度、小学校の校舎に逃げるのかというような検討はまたこれからも続けてさせていただきたいというふうに思います。

○谷口博文委員長 阿部委員。

○阿部計一委員 そりゃ保育所は福祉部局であるし、小学校は教育委員会、ここは地震・津波防災、きょうは副市長と部長と委員長ということで。これはまたそういう所管の何が来たときにまたそういうことをきっちりと検討させていただきたいと思います。  
これで終わります。

○谷口博文委員長 それではその他のその他、何か御意見ございますか。  
ございませんか。  
なければこれで委員会を閉じたいと思います。どうもお疲れでございました。

(閉会 午前10時40分)

委員会条例第30条の規定により、ここに署名する。

平成25年 1月28日

南あわじ市議会地震・津波対策特別委員会

委員長 谷 口 博 文